

超党派「国民の質の高い睡眠のための取り組みを促進する議員連盟」（略称：睡眠議連）  
第3回総会が開催されました

令和6年4月11日(木)8時30分～9時30分に、衆議院第2議員会館第5会議室において、  
超党派「国民の質の高い睡眠のための取り組みを促進する議員連盟」（略称：睡眠議連）第3  
回総会が開催された。睡眠議連には、2024年1月末時点で37名の国会議員が入会している。  
第3回総会は、古川俊治事務局長(自民、参)の進行の下、田村憲久会長(自民、衆)の挨拶  
に引き続き、以下のヒアリング・講演の後に意見交換がなされた。

ヒアリング

「睡眠科の標榜について」（日本睡眠学会理事長 内村直尚氏）

「新診療科の標榜の要件について」（厚生労働省医政局総務課課長 姫野泰啓氏）

講演

「日本人の健康と睡眠」（公益社団法人日本医師会名誉会長 横倉義武氏）

内村直尚理事長は、日本国民の未来を開く睡眠ビジョンの第一優先課題である睡眠科の  
標榜実現に向けて、必要な4つの条件、①独立した診療分野を形成していること、②国民  
の求めの高い診療分野であること、③診療科名がわかりやすく国民が適切に受診できるこ  
と、④国民の受診機会が適切に確保できるよう、診療分野に関する知識・技術が医師に普  
及・定着していること、について全て十分に満たしていることを、当学会などで実施した  
調査結果を基に力説し、睡眠医療を行う関連学会からの賛同もほぼ揃いつつある現状を報  
告した。これを受け、姫野泰啓厚生労働省医政局総務課課長から、医療法における広告規  
制としての標榜診療科名の考え方、過去の改正経緯と現状について説明された。そして、  
横倉義武日本医師会名誉会長の講演では、健康づくりのための睡眠ガイド2023を引用して、  
日本人の健康保持における睡眠の重要性が強調された。

意見交換では、田村憲久氏、古川元久幹事長(国民、衆)、古川俊治氏の睡眠議連三役が、  
揃って睡眠科標榜を後押しする発言をしたのに加えて、舟山康江氏(国民、参)と秋野公造  
氏(公明、参)から踏み込んだ質問がなされた。柳沢正史理事と栗山健一理事からの発言も  
加わって、議論は一層白熱した。総会終了後も、参加者同士の活発な意見交換が続いた。  
当学会が目指す睡眠科の標榜という目標が、さらに現実味を帯びてきた印象を強く抱いた  
次第である。今後とも学会諸兄の御理解と御協力の下、活動していく方針であり、随時経  
過を報告させていただきたい。

尚、同日令和6年4月11日(木)17時30分～18時30分には、参議院議員会館B108会議  
室において、公明党医療制度委員会・2040ビジョン検討委員会医療分科会・女性委員会合  
同会議が開催され、内村直尚理事長による「良眠が健康長寿や幸福度の向上をもたらす～  
健やかな睡眠で日本の未来を開く～」というテーマで講演が実施されたことを付記する。

当日の出席者は、以下の通りである。

【出席者】 敬称略

・睡眠議連(28名)

[衆議院] 亀岡偉民(自民)、桜田義孝(自民)、田村憲久(自民)、三ツ林裕巳(自民)、和田勇一郎(維新)、中川康洋(公明)、古川元久(国民)〈本人出席〉、神田憲次(自民)、塩谷立(自民)、西村康稔(自民)、逢坂誠二(立憲)、羽田次郎(立憲)、馬淵澄夫(立憲)、吉田統彦(立憲)、一谷勇一郎(維新)、福島伸享(有志)〈代理人出席〉

[参議院] 江島潔(自民)、比嘉奈津美(自民)、古川俊治(自民)、星北斗(自民)、高木かおり(維新)、秋野公造(公明)、伊藤孝恵(国民)、舟山康江(国民)〈本人出席〉、石田昌宏(自民)、自見はなこ(自民)、藤井一博(自民)、鈴木宗男(維新)〈代理人出席〉

・厚生労働省(8名)

姫野泰啓(医政局総務課課長)、矢野好輝(医政局総務課保健医療技術調整官)、染谷拓郎(医政局総務課課長補佐)、山本英紀(健康・生活衛生局健康課課長)、谷口倫子(健康・生活衛生局健康課女性の健康推進室室長)、宮越恵(健康・生活衛生局健康課課長補佐)、岩崎もにか(健康・生活衛生局健康課主査)、辻川優(労働基準局安全衛生部労働衛生課メンタルヘルス対策・治療と仕事の両立支援推進室中央労働衛生専門官)

・サポートメンバー(5名)

大久保勉(前久留米市長、元参議院議員)、高山智司(元衆議院議員)、宮原禎(一般社団法人日本睡眠協会事務局長、株式会社 ACCELStars 代表取締役 CEO)、原口敦(一般社団法人日本睡眠協会副事務局長、株式会社 ACCELStars)、鈴木渉(グーグル・クラウド・ジャパン合同会社政府渉外・公共政策部長)

・日本睡眠学会(7名)

内村直尚(理事長、久留米大学学長)、千葉伸太郎(副理事長、医療法人愛仁会太田睡眠科学センター所長)、山寺亘(事務局長・理事、東京慈恵会医科大学精神医学講座教授)、栗山健一(理事、国立精神・神経医療研究センター睡眠・覚醒障害研究部長)、本多真(理事、東京都医学総合研究所睡眠プロジェクトプロジェクトリーダー)、八木朝子(理事、久留米大学医学部医療検査学科准教授)、柳沢正史(理事、筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構機構長)

山寺 亘 (事務局長)



## 睡眠の健康効果

### 巡り識者が講演

#### 党合同会議

公明党の医療制度委員会（委員長＝秋野公造参院議員）と女性委員会（委員長＝竹谷とし子参院議員）などは11日、参院議員会館で合同会議を開き、日本睡眠学会の内村直尚理事長から、睡眠がもたらす健康への効果な

どについて講演を聴いた【写真】。

内村氏は、睡眠不足が肥満、うつ病のリスクを高める一方、65歳以上では寢床で過ごす時間が長くなると健康に悪影響だと報告。その上で、睡眠に不安を抱える人が診察を受けられるよう「（診療科として）『睡眠科』と掲げられるようにする必要がある」と述べた。